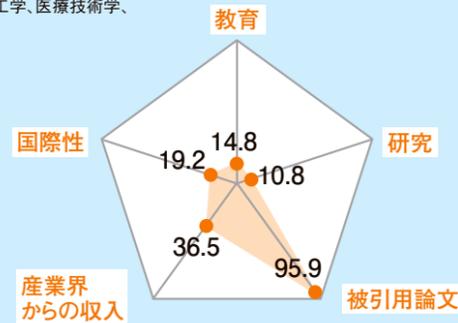




学生数/約22600人  
 学部/医、薬、経済、法、文、外国語、教育、理工、医療技術、福岡医療技術  
 大学院/医学、薬学、経済学、法学、文学、外国語、理工学、医療技術学、  
 保健学、公衆衛生学  
 研究所/4研究所、17センター・開発室

指標	スコア	順位	参考データ
総合	38.8-42.3	401-500位	ST比率/16.7
教育	14.8	1001+位	留学生の割合/2%
研究	10.8	1001+位	
被引用論文	95.9	61位	女男比/34:66
産業界からの収入	36.5	801-1000位	
国際性	19.2	1001+位	



Case Study

# 特色ある研究シーズの創出 研究者間のコラボレーションを促進

## 帝京大学

研究者同士がつながる場をさまざまな形で設け、  
 知の融合を積極的に図る帝京大学。  
 既存のシーズから、新たな可能性を引き出している。

### 学内外の連携を強化 学際領域の拡大と

世の中の人々にとって信用できる知が集まる場所、それが大学だと考えています。TJIE世界大学ランキングで前回に続いて401-500位にランクインしたことで、本学の研究が世界レベルで信用を得ていることを確認できました。今後は、学際領域における研究を拡大し、時代に即したシーズを生み出すことで、信用をさらに高めていきたいと考えています。

本学の場合、例えば八王子キャンパスにある医療技術学部と経済学部によるスポーツビジネスの研究など、同じキャンパス内にある学部間の連携は進んでいます。板橋、八王子、宇都宮、福岡の各キャンパスを越えた全学的な連携にはまだ課題があります。そこで、

学内の研究者がコラボレーションするきっかけづくりの場として、2018年から「研究交流シンポジウム」を開催しています。

さらに2021年には、既存の研究所やセンターを束ねる位置付けの「先端総合研究機構」を発足させます。これにより、学内にいる研究シーズと学内外のシーズやニーズとの連携を全学的・組織的に推進していく考えです。連携のキーワードは「AI」と「ヒューマニティー」。進化の速度を増す科学技術の中でも核となる分野「AI」と、技術発展とは切り離せない倫理的な問題を扱う「ヒューマニティー」を軸に、内外の研究を結び付け、特色ある研究分野をつくり出します。

研究者育成では、他の研究者と交流し、研究の幅を広げていくことが重要です。育成面からもコラボレーションを推進していきます。

### 研究力の源泉は「人」 意欲高める手厚いケア

全学的に研究を活性化させる鍵は、個々の「研究熱」が最大限に発揮される土壌づくりにあると言えるでしょう。

2013年に設置した女性医師・研究者支援センターは、研究を続けるうえで障壁を取り払い、性別を問わず働くべき人が働ける環境を整えることが主な役割です。妊娠、出産、育児、介護などのライフイベントに際しての研究補助スタッフの配置や、希望者へのメンターのマッチングといった支援を行っています。

研究者の評価方法も重要な検討テーマです。めざすのは、本人のモチベーションと、大学側の期待をバランスよく満たすしくみです。現在は研究、教育、大学業務などにおける業績を一律の基準で点数化し評価しています。しかし今後は、共同研究などの大学が重視する項目を評価に加え、各人の強みが生かせるように、項目ごとの評価ウェイトを研究者自身が決められるようにするといったことも必要でしょう。

研究者が持てる力を存分に発揮できる環境づくりと、異分野間のコラボレーションによる学際的な研究が、本学ならではの知を生み出す原動力になります。大学ランキングなどの客観的な指標で強みや弱みを分析し、特色化をさらに進めることで、世界の中の大学の存在感を高めていきます。

## 取り組み

- ▶教育：各学部の教務が国際、キャリア等の部署と連携
- ▶研究：2021年以降、先端総合研究機構が統括する予定

	教育	研究
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶妊娠・出産・育児・介護に直面して研究活動の継続や研究時間の確保が困難となった教員に研究支援員を配置する「研究支援員制度」のほか、「保育施設利用補助制度」「ベビーシッター割引券発行事業」などがある。</li> <li>▶希望者に対して、豊富な知識と職務経験を有した上位職研究者(メンター)が相談に乗り、研究指導やキャリア形成上の課題解決を支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「臨床研究センター」で研究グループや診療科を越えた臨床研究を支援。「戦略的イノベーション研究センター」などで産官学連携を推進。</li> <li>▶若手研究者の独創的で優れた研究活動を「帝京大学研究奨励助成金」で支援。2018年度は19件の研究課題に対して各50万円を助成。</li> <li>▶「Frontier Research Unit (FRU)」は、共用の研究施設で、学内外の共同研究で利用できる。</li> </ul>
学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶女子中高生を対象に、理系進路選択支援プログラム「次世代に絆(つな)ぐサイエンスキャリア」を実施。理工系分野の大学研究、実験機器を体験するサイエンスキャンプなどを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶大学院生に臨床の機会を提供。例えばメンタルケアに取り組む「心理臨床センター」では、教員の指導の下、訓練を受けた大学院生が実際にカウンセリングを担当。</li> <li>▶大学院生や若手研究者を対象に毎月実施している「ジャーナルクラブ」では、海外の専門誌に掲載された論文を読み解き、リサーチマインドを醸成。</li> </ul>

## 注目! 学部、キャンパスを越えて 連携を促す全学シンポジウム

学内の共同研究を活性化させる目的で行われている全学イベント「研究交流シンポジウム」。2018年12月の第1回における参加者は500人超、ポスター発表260件という盛り上がりを受けて、大学は「先端研究推進助成金」を創設。ポスター発表を行った研究者から共同研究の提案を募り、26件が選定された。2019年8月には第2回が開かれている。

「本学に意欲的な研究者が集まっていることを再認識した」と語る冲永学長。共同研究に対する意識を継続的に高め、埋もれているシーズを掘り起こして次世代に渡す流れをつくりたいという。



▲ポスター発表者の話に耳を傾ける冲永学長



理事長 学長 冲永佳史

おきながよしひと●1996年慶應義塾大学理工学部を卒業後、同大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。1993年から学校法人冲永学園理事長などを経て、2002年学校法人帝京大学理事長、帝京大学学長に就任。2009年帝京大学短期大学学長。専門は液体工学。